

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

・健康で 明るい子ども ・礼儀正しく 思いやりのある子ども ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども
--

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

○ 基本的な学習習慣及び生活習慣を確立する自律力 ○ 他者を尊重し、自分の意見や考えを伝えることができる表現力 ○ 知識・技能を活用し課題の発見と解決に取り組もうとする力

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因		
	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の国語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。 ・特に「書くこと」の領域や「情報の扱い方に関する事項」の領域が目立って低い。 ・第4学年に関しては、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点も低い。	・情報と情報を関連付けたり活用したりする機会が少ない。 ・相手を意識し、自分の考えや意見を伝えるように書く経験が少ない。
算数・数学	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の算数科全体の平均正答率が区の平均よりもやや低い。 ・問題文を読み取って答える問題については正答率が低い。 ・第5学年に関しては、図形の領域のポイントが低い。	・図形を求める公式を活用して課題に取り組むことが多いが、その公式が表す意味について表現する機会が少ない。 ・長さや重さ、広さを表す単位を理解していても、量感が身についていない。 ・日常の経験と結び付けて考える問題が弱い。
社 会	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の社会科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。 ・観点別に見ると「知識・技能」のポイントが3観点の中で一番低い。	・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動が必要である。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を活用する機会が少ない。
理 科	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第4，5，6学年の理科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。 ・特に第4学年は「植物の育ち方」「光の性質」、第5学年は「ものの体積と温度」は、区の平均を下回っている	・体験や経験はしていても、知識として身につけていない。
英 語	・「令和5年度学習力サポートテスト」において、第6学年の英語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや上回っている。しかし、「主体的に取り組む態度」の観点及び「記述式」の解答形式においてやや下回っている。	・英語と日本語の発音の相違が積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を少なくしている。 ・言語やその背景にある文化について興味が乏しい。

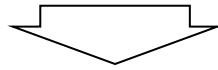
体育・保健体育	「令和5年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「20mシャトルラン」・「ソフトボール投げ」のポイントが低い傾向にある。加えて、男子は「50m走」も低い傾向がある。	・運動経験の差が運動技能の差につながっている。 ・授業内で、話し合い活動や、課題発見、解決をする授業展開を構成することが少ない。
---------	---	---

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く活動を多く取り入れる。 ・いくつかの情報を関連付けながら読み取ったりわかったことを表現したりする活動を取り入れる。
	算数・数学	・図形を求める公式が表す意味を理解し、表現する活動を意図的に設定する。 ・具体的な日常の経験と結び付けたり、身近なものを測定したりし、量感が身につくような活動を多く取り入れる。
	社会	・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動を多く取り入れる。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を積極的に活用する。
	理科	・生活体験をもとに実験結果の予想を立てたり、実験結果を全体で検証したりする活動を多く取り入れる。 ・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。
	英語	・「令和6年度学習力サポートテスト」において、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」の観点及び「記述式」の解答形式のポイントが区の平均を上回るようにする。
	体育・保健体育	・「令和6年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「20mシャトルラン」・「ソフトボール投げ」のポイントが参加校の平均を上回るようにする。
②授業改善	【目標】 ・ICTを活用して、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現をめざしていく。 ・ユニバーサルデザインを取り入れ、個別に支援が必要な児童に適した授業改善を行う。 ・教科担任制のもと、教える教科に専念した教材研究を行い、質の高い教科指導を行っていく。 【指標】 ・学力向上委員会を定期的開催し、計画的かつ定期的な授業改善を行っていく。 ・学校評価教員アンケート「授業内容」に関する項目で肯定的評価の95%以上を目指す。 ・学校評価児童アンケート「授業内容」に関する項目において、肯定的評価の95%以上を目指す。 ・校内研究でのタブレット端末の効果的な使用方法の研究を通して、教員の授業におけるタブレット端末のICT機器活用力の向上を図る。	
③家庭との連携	【目標】 ・学校便り、学年便り及び各種アンケート等の配布物のデジタル化を行っていく。 ・月1回の学校公開を実施し、家庭、地域に本校の教育活動の理解を深めていく。 【指標】 ・学校評価保護者アンケート「保護者との連携」の項目において肯定的評価が90%以上を目指す。	
④体力向上	【目標】	

	・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。 ・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できるようにする。 【指標】 ・学校評価児童アンケート「体力向上」の項目において、肯定的評価が80%以上を目指す。
--	--

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	・ある程度の長さの自分の意見や考え、感想を書く活動を多く取り入れる。 ・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く活動を多く取り入れる。
算数・数学	・図形を求める公式が表す意味について表現する活動を意図的に設定する。 ・数直線を活用して数量関係を整理する活動を多く取り入れる。
社会	・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動を多く取り入れる。 ・資料から読み取った事柄だけでなく、そこから考えられることを言葉にして表現する活動を多く取り入れる。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を積極的に活用する。
理科	・生活体験をもとに実験結果の予想を立てたり、実験結果を全体で検証したりする活動を多く取り入れる。 ・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。
英語	・積極的にコミュニケーションをとる活動を意図的に設定する。 ・言語やその背景にある文化について調べたり発表したりする活動を多く取り入れる。
体育・保健体育	・体づくり運動では、サーキット運動を多く取り入れて、体力の向上やものを操作する力を養う。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	・書く観点を明確にし、文の組み立てを考えてから文章を書く活動を取り入れたことで、わかりやすい文章を書く力が身に付いてきている。 ・いくつかの情報を関連付けて物事を伝える方法が理解できてきた。	・誰に何を伝えるのか明確にして話をしたり、文を書いたりする経験を増やしていく。 ・自分の考えをもたせる指導を充実させる。
	算数・数学	・念頭操作だけでなく、実際に具体物を使って操作活動をすることが、量感を身に付けることにつながった。 ・図形領域では、図・言葉を照らし合わせて考え、多様な解決方法を経験させることで、公式の意味を理解することができた。	・既習事項を活用し、自分の考えの根拠をはっきりさせて説明する機会を増やす。 ・学習した内容と日常生活の中にある数学的な事象が結びつくような工夫をする。
	社会	・デジタル資料を活用することで、資料を見ることに興味をもち、気付きが増えた。 ・児童にとって身近な資料を複数用意することで、必要な資料を選ぶ力が付いた。また、資料同士を関連付けて、新たな気付きが生まれ、考えを深めたり広げたりすることができた。	・資料に興味はあるが、言葉で資料の説明をする能力が身に付いていないので、自分の言葉で説明する機会を増やす。 ・変化に気付かせるために、資料の出し方を工夫する。
	理科	・教科担任制の導入により、予想の立て方や考察の仕方を理解して学習に取り組むようになった。 ・実験結果や考察をグループや全体で交流することで、考えが深まるようになった。	・実験を充実させるため、理科支援員と連携して準備を進める必要がある。 ・日常生活と結びつけて、予想したり考察したりする力を更に付けていく。
	英語	・国際理解教室を通して、他国の文化や言語に興味をもち、調べたり発表したりすることができた。 ・ALTのネイティブな発音をたくさん聞くことで、児童同士の活動において、自信をもって英語で	・ローマ字の習得に個人差があるので、ローマ字の指導を丁寧に行う。 ・児童の興味があることや日常で使える英語を授業に取り入れるようにする。

		話すことができた。	
	体育・保健体育	・体力テストの種目については、高学年に手本を見せてもらったりポイントを教えてもらったりしたことが、技術の習得につながった。 ・中学年は、教科担任制の導入により、児童の学習状況の見取りや適切な助言ができた。 ・タブレットを使用することで、自分の課題がはっきりし、課題解決に向けた運動に取り組むことができた。	・器械運動領域はどの学年も技能の高まりが見にくい。道具（場の工夫など）や人などの環境を整えていく。 ・技能向上への意識が弱い領域に付いては、学習カードを充実させることで、児童に積極的に取り組ませていく。
② 授業改善		・全教員が、タブレットを活用しながら「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現をめざし授業改善に努めたことで、児童が興味関心をもって学習に取り組む姿が多くみられた。 ・教科担任制を行うことで、更に教材研究を充実させ、児童の実態に合わせた授業展開を構築することができた。	・教科担任制を更に充実させ、課題や改善点を明確にしながら授業改善に努める。 ・OJT 研修会や校内研究授業の協議会では、意見交流を活発に行い、授業の見方や改善点について学びを深めていく。 ・OJT 研修や学年会などを通し、学び合い、意見交流ができる場を継続して設けていく。
③ 家庭との連携		・学校便り、学年便り及び各種アンケート等の配布物のデジタル化を行っていくことで、教育活動を発信することができた。 ・月1回の学校公開に平日開催を取り入れ、より児童の日常の様子を参観いただき、児童理解を深めることができた。	・教育活動の発信を今年度同様に継続していく。 ・オンラインでの保護者会や個人面談も可能とすることで、家庭との連携を更に強め、信頼関係を構築していく。
③ 体力向上		・中休みは校庭と体育館を学年別に使用するだけでなく、中学校校庭も使用することで、広い場所で運動ができ、体力向上に努めることができた。	・中休み以外に、児童が運動できる時間の確保を考える必要がある。 ・縄跳びカードや持久走カードなどを使用し、継続的に体力向上を目指す。